

1032

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和 6 年度)

(宛先)岡崎市長

令和7年 3月 30日

団体名 イリゼ

代表者 西本 梓

構成員 5 人(※令和7年4月1日時点の構成員数)

団体の目的: 団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

LGBTQ 当事者の実情に配慮しつつ、企業の LGBTQ 施策への関心を高め、取組みを推進することを通じて、多様な労働者の雇用の安定及び職業生活の充実を図るとともに、企業並びに社会の発展に寄与すること。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。
なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどのような活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活動内容
7月21日	西部交流センター	参加者	5	(居場所の提供) KITEMIRIN
9月15日	西部交流センター	参加者	5	(居場所の提供) KITEMIRIN
11月3日	西部交流センター	参加者	5	(居場所の提供) KITEMIRIN
12月1日～ 12月3日	リブラ	来場者	延べ 100 人	(展示会)私たちがだって“いいふうふ”になりたい展 in 岡崎 2024
12月14日	シビックセンター	岡崎市主催の講演会 参加者	延べ 20 人	(展示会)私たちがだって“いいふうふ”になりたい展 in 岡崎 2024

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。<ex.自然環境>

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

居場所「KITEMIRIN」では、LGBTQ 当事者やそうかもしれない人の中で申込があった方を対象に居場所を提供。半数以上が岡崎市在住であり、性的指向や性自認がマイノリティであることにより、生き辛さを吐き出す、あるいは安心して居ることのできる場として機能した。

「私たちがだって“いいふうふ”になりたい展 in 岡崎 2024」は、全国展開している話題の展示物を岡崎で披露した形である。多様な性のあり方、そして多様な家族のかたちを“知って”もらうことに役立った。岡崎市では、パートナーシップ・ファミリーシップ制度があるため、展示会で併せて周知・啓発を行った。なお、12/14 に行った展示会は、岡崎市多様性社会推進課主催の講演会と会場を共にし、協働して開催している。

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← 5 (4) 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください。

国際的にも性的指向・性自認に関する課題は人権課題と位置付けられている。日本国内では重要な司法の判断や理解増進法が施行されたことにより、急速に可視化が進んでいる。一方で、差別や偏見が助長しており、LGBTQ 当事者から日々悲痛な生の声を聞いている。そのため、普及・啓発により「正しい知識」を提供することは重要だ。性的指向・性自認に関する取り組みが進む岡崎市で、市民が居場所や展示会を行う意義を感じた 1 年であった。

裏面の自己診断チェックリストもご記入ください。